

シンポジウム「現代史認識と歴史教育 PART II—沖縄から考える」
の開催について

1. 主 催 日本学術会議史学委員会
日本歴史学協会
2. 日 時 平成20年10月18日（土）13：30～17：30
3. 場 所 東京大学教養学部（駒場キャンパス）18号館ホール
（〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1）
4. 次 第

開催趣旨

昨年の「現代史認識と歴史教育」のテーマを継承し、今年は、昨年後半以来「集団自決」に関する教科書記述が大きな話題になった沖縄の近現代史を取り上げる。日本近現代史のなかで沖縄がどのように位置づけられてきたか、を主報告とし、それとの関連で、中国近代国家成立過程における中華民族概念と周辺の民族との関係、さらに中学校における「沖縄」に関する教育実践報告、の2つの報告を準備し、総体として沖縄近現代史の特質を解明する。

開会挨拶： 桜井万里子（東京大学名誉教授、日本学術会議会員）
趣旨説明： 木村 茂光（東京学芸大学教授、日本学術会議連携会員、
日本歴史学協会歴史教育特別委員会委員長）

I 講 演（13：45～15：30）

- 1) 日本近現代史のなかの沖縄史 戸邊秀明（早稲田大学非常勤講師）
- 2) 中国近代における中華民族概念と中国歴史教科書
田中比呂志（東京学芸大学准教授）
- 3) 沖縄をめぐる教育実践 平井美津子（大阪府吹田市中学校教員）

II 討論など（15：45～17：20）

閉会挨拶： 木畑洋一（東京大学教授、日本学術会議連携会員、
日本歴史学協会委員長）

参加申込方法

事前申し込みの必要はありません。